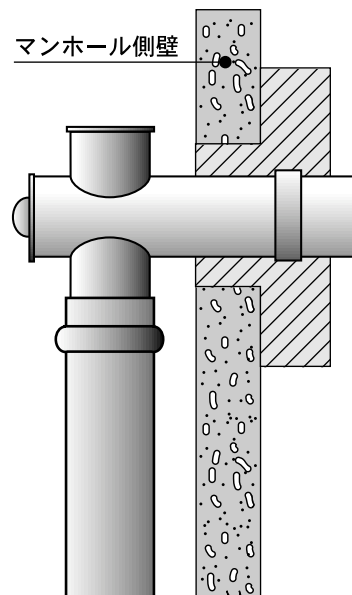
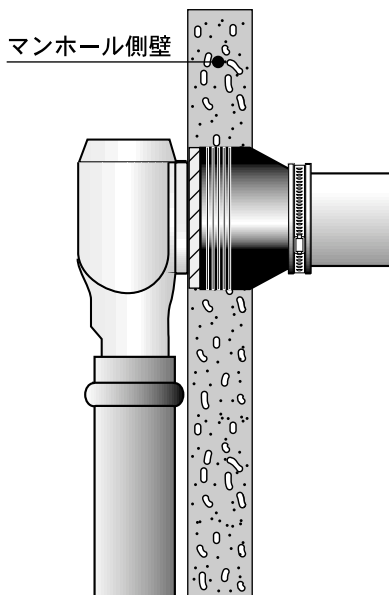


[従来の内副管とインサイド・ドロップ^{PAT.P}との比較]

インサイド・ドロップ^{PAT.P}

従来型



(特徴)

- ①省スペース化、
1号マンホールに取付可能
- ②耐震設計に対応

品番	タイプ	マンホール	流入管径 (mm)	最大流入削孔径 (mm)	垂直管
ID150R	(右)	1号、2号	150	262	VU100 又は VU150
ID150L	(左)	1号、2号	150	262	VU100 又は VU150
ID200R	(右)	1号、2号	200	314	VU150 又は VU200
ID200L	(左)	1号、2号	200	314	VU150 又は VU200

(施工性) *工期短縮・コスト削減

- ①熟練度を必要としない
 - ドロップボウルはアンカーボルト3本でマンホールの内壁に取付ける。
 - 取付けの際、ブチルシールも利用して止水効果もあり。
- ②流入管との接続は不要
 - 流入管口に合わせてドロップボウルを取付ける。
 - 流入管は従来通りの施工。
(可とう継手ブーツによる施工)
- ③施工時期
 - ドロップボウル、垂直管の施工はインバート施工完了後にも取付けることが可能。



*垂直管(塩ビ)はゴム輪受口を使用してください。
*流入管の勾配は最大200%まで対応可能です。
*1号、2号マンホール以外のご相談ください。
*流入管がVU250以上の場合にご相談ください。

(維持管理) *メンテナンスが簡単
開口断面の為、点検が目視で確認できる。

(耐震性) *耐震レベル2に対応

- ①従来工法のようなコンクリート巻きたてが不必要
- ②流入管・流出管とも可とう継手ブーツ施工により耐震性を有する

(使用箇所) 新設:外副管及びマンホール内で汚水が飛散する流入口。急勾配の管路。
既設:副管(内・外)のやり替え工事。